

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 新居浜市立川東中学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 792 - 0884  
愛媛県新居浜市神郷二丁目4番1号

E-mail kwh-jof@esnet.ed.jp  
Website https://kawahigashi-j.esnet.ed.jp/cms/

幼児児童生徒数 男子 279 名 女子 238 名 合計 517 名  
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「地域の暮らしを見つめ地域や社会の一員としてよりよく生きる」を学校統一テーマとしている。ESD を、身近な学校生活の中にある良さを今までとは異なる角度から見つける機会と捉えている。ESD の実践を通して、今を生きるの力の育成を目標とした。

具体的には、プロジェクト学習を柱に、①文化に関する活動 (1 年次)、②環境に関する活動 (2 年次)、③福祉に関する活動 (3 年次)、④防災に関する活動 (全校) を行った。

### ① 文化に関わる活動 (1 年次)

新居浜を代表する産業文化である別子銅山に、毎年に登山を行っている。実際に山登りをすることで、当時そこで働いていた人々のいぶきを感じることができた。登山に先立って、新居浜南高等学校ユネスコ部による出前授業や、パンフレットをもとにした調べ学習を行い、当日の活動がより有意義なものになるようにした。山頂への道を踏破した生徒達の表情は、さわやかであった。

## ② 環境に関する活動（2年次）

地域の方々を招いて、環境に関する出前授業を行った。5名の講師の先生方が、各教室をローテーションしながら授業することで、生徒たちは様々な環境問題について知識を吸収し、考えることができた。一人ひとりの力はたとえ小さくても、多くの人々が力を合わせることで、少しずつでも環境を変えていくことができると感じられた。工業と深く関わる新居浜市に住むからこそ、環境と共存しながら持続的に街を発展させる方法を地域の一員として考えるべきだと感じた。

## ③ 福祉に関する活動（3年次）

高齢者の方々の生活の実態や高齢による身体の衰えを知ることが高齢者理解につながると考え、高齢者疑似体験を行った。新居浜市総合福祉センターに協力を仰ぎ、高齢者疑似体験キットをお借りした。視野を制限するゴーグルや関節の可動区域を制限するリストバンドなど、普段の生活に支障をきたす状況を意図的に作り、体験させるキットだった。移動の際のわずかな段差でも歩行にかなりの労力があることや、普段は意識せずに持ち運んでいたものの、移動に苦勞することを体感し、介助の必要性や方法を学ぶことができた。

## ④ 防災に関する活動（全校）

本校では、各学期に1回ずつ、防災避難訓練を行っている。内容も、地震対策・火災対策・不審者対策と様々で、生徒が自分に起こりうる様々な災害に対応できるようになっている。今年度は新たにJアラートを導入した訓練も加わった。それとは別に、市内の消防署から多くの署員を招いて、防災体験学習を行っている。煙ハウス体験や消火器を実際に使う訓練（1年生）、AEDを導入した傷病者対応（2年生）、地震体験車を用いた災害体験（3年生）など、内容は多岐にわたり、充実している。



文化に関わる活動（1年次）



環境に関わる活動（2年次）



文化に関わる活動（1年次）



防災に関わる活動（全校）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 休日 長期休暇中 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

「総合的な時間・プロジェクト学習 ポートフォリオシート」  
著者：鈴木敏恵 発行所：株式会社 教育同人社

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、主に総合的な学習の時間に、プロジェクト学習という形でユネスコスクールとしての活動を教育課程に位置付けている。各年次ごとに「文化（1年次）」「環境（2年次）」「福祉（3年次）」という指導内容で、ポートフォリオを活用し、生徒自身が見つけた課題を解決する指導方法を取り入れている。ESDを通じて、学校内だけでなく、地域の一員として微力ながらも社会に貢献できる生徒を育てたい。また、新しい活動を開拓するだけでなく、例えば、清掃活動を休日にPTAと合同で行うなど、従来の学校生活の中にあるESDを見つけるよう工夫している。活動の際には、生徒に先だって教師が率先垂範することで、学校がより一層一丸となるよう努力している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、生徒会・委員会の組織と教師・生徒が連動してESDの活動に取り組んでいる。生徒会が毎年提案する地域清掃のボランティアには、毎回多数の生徒が参加し、地域の方々からも好評である。奉仕委員会が毎学期行う資源回収では、教員や生徒が自宅にある雑誌や新聞、ダンボールや空き缶を持ち寄っている。人権委員会が毎週行う落書き調査では、生徒を傷つける落書きを許さないという人権や命を守る心を育てるとともに、学習環境の整備にも役立っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校では毎年、教員による学校評価アンケート（内部評価）を行っている。その中の「『持続可能な開発のための教育（ESD）と特色ある学校づくりの推進』について自校のESDの推進に向けて、教職員の意識統一のもと積極的に取り組んでいる。」という項目では、「できている(40.0%)」「あまりできていない(56.7%)」「できていない(3.3%)」であった。教員がESDの本質を捉えきれず、実践に移すことに困り感を持っている様子が伺えた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校の所在する新居浜市では、小中学校全てがユネスコスクールに認定されており、月一回程度ESD通信が発行されている。本校のみならず他校での取り組みや、市が一丸となって取り組んでいることを周知する。一人一人の力は微力でも、大勢の力を合わせれば大きな力になることを理解してもらえれば、保護者や地域の方々からの協力を得ることにつながる。さらに、学年通信や学級通信でもESDに関する活動を紹介し、生徒の自主的な活動を啓発できる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校では、ESDの活動において地域の人材の活用することで、学校と地域の連携を図り、開かれた学校づくりの一環としている。1年次では、地域の高等学校のユネスコ部を招へいし、市内の銅山登山の事前学習を行っている。2年次では、市内の高等専門学校等から講師を招へいして出前授業を行い、生徒が様々な環境のテーマに触れられている。3年次では、地域の介護施設等と連携を図り、アイマスク等を用いた高齢者体験や、車椅子を用いた介護体験を実施している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

校区の小学校6年生を対象に、毎年3学期に数回、本校の中学校教員が出前授業を行っている。中学校で初めて本格的に学ぶ英語の授業や、環境教育と理科を融合させた葉脈標本作りなどを通して、ESDの資質を育成することができる。また、小学生が中学校の授業の様子を知ることで、中間ギャップを軽減することにもつながっている。今後は、毎年アメリカと行っている交換留学の際に、ユネスコスクールを選ぶことで、より一層ネットワークが広がるであろう。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動を通じて、生徒が自分にできることを考えて実行するようになってきている。エコキャップ活動や書き損じ葉書の回収活動がその例である。本校は市内の大規模学校の一つであり、生徒数が多く、回収活動の時に多くの量が集まりやすい。一人一人の力を合わせた時の効果を実感しやすいので、無関心ではなく、微力ながらも力を出し合おうという態度の育成につながる。今後は、地域の各機関やPTAとの連携を密にし、生徒以外を巻き込んだ活動を展開したい。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も今年度と同様の活動を継続する計画である。  
総合的な学習の時間のプロジェクト学習においては、毎年度統一された学習内容を継続することで、後輩生徒が先輩生徒の学習活動を手本にしたり、教師が見通しを持って指導にあたったりしやすくなるという利点がある。また、過年度の指導内容の中にある新たなESDに気づいたり、これまでの内容を深化させたりできると考えている。  
学校行事におけるESDにおいても、今年度と同様の活動を継続することで、地域との繋がりを太く確かなものにしていけると考えている。  
「不易と流行」という言葉にあるように、改善が必要な部分や地域・生徒のニーズには柔軟に対応しながらも、骨太な教育実践がしっかりと根を張って定着し、持続的な活動ができるよう配慮したい。